



# 日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.3.2 No. 3172

# この理不尽許すまじ JR体制打倒=3月決戦へ

「指導センターは何でもできる権限がある」!

われわれの一二、五一、一八の二波にわたるJR体制後初の運転ストと、その路線が労働者の胸を打ったがゆえの組織拡大の成果に恐れをなしたJR当局と、利己的利益とJR当局の介入によって支えられている組織的脆弱性を背景に持つJR総連は、動労千葉の二一三月闘争の前進を前にして、二月二〇日から連日千葉線内の売店関係組合員に対して、報復的な組織破壊攻撃をかけてきている。

特徴的な事例として、二〇日には、一七時頃まず初めに稲毛海岸駅助役と浦安地区指導センターSとCが、駅の中や、私物のあるロッカー室（カギのかからないロッカーもある）にまで入り、そこにあった日刊などを持ち去り、わざわざ支社に電話連絡、その足で売店前にくる。組合員Aさんが「ロッカー室にまで入って私物がなくなったらどうするんだ」と追及したのに対し、Cのごときは「ロッカー室でもどこでも指導センターは入る権限がある」、二度目は同日一九時すぎに千葉支

社人事課、企画課以下六名が、ことわりもなく店舗内に「乱入」し、店舗内を勝手に写真にとり、そこにあった「日刊」などを持ち去るといふ暴挙を行った。

接客中でもあった組合員は、「お客の迷惑になるので閉店後にしろ」と要請しても、人事課Aのごときは、「組合バッジをはずせ」とわめきたて、利用客も驚いてたじろぐという異常さであった。

JR当局は常々「関連事業の育成は重要な施策」と言っていることとは逆に、お客が驚いて逃げ出すような行為を平気で行っているのである。JR当局は、強制配転者の原職復帰要求に対しては、「売店が適材」などと平き直っている。

その一方では、組合員が一生懸命販売に集中している前で、どなりちらすなどの暴挙を行っているのである。千葉支社のなりふりかまわない、動労千葉組合員への敵対と強権的労務支配を許さず、組織破壊には「ガード」をしっかりと固め、怒りを倍化させ、三月決戦勝利に進もうではないか!

## 千葉地労委

# 勝利命令下る



勝負はこれから

原職奪還まで!  
清算事業団

林支部長の決意

勝利命令が出ることは一〇〇%確実だと思っていたが、今までの動労千葉の地労委闘争の成果だと思っている。

内容的には、われわれの全面勝利である。

しかし、この命令に魂を吹きこみ、力を与えるのは自らの闘い以外にない。JRは千葉地労委の勝利命令を守れ、これを当局につきつけて、新たな気持ちで闘いぬいていきたい。

一切は、これからの我々の闘いにかかっている。これまでの全ての皆さんの御支援に感謝するとともに、全国の仲間の皆さんとより固く手を結んで、一二名全員の原職奪還に向けて、更に事業団支部は、全力で闘いぬきます。

90年代の勝利へ、新たな10年を切りひらこう!